

気候変動適応に関する業務

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 短期間で、当センターを日本における気候変動適応に関する中核機関として立ち上げ、地方自治体との連携強化や情報提供、科学的知見の収集等で期待以上の成果を上げたと評価する。【年度】【見込み】
- 地方公共団体や事業者等に情報を提供するための A-PLAT を全面的に改修し、サイト全体の利便性を向上させたこと、それによりページ訪問者数が大きく伸びたことは高く評価できる。【年度】
- 影響観測、影響予測、対策評価と明確な研究課題を掲げ、順調に取り組まれていることを評価します。【見込み】
- 自治体が温暖化のように長期の問題に関して、時間スケールなどを踏まえて計画策定を実施する際のように取り組めば良いのかを示すことが重要ではないか。【見込み】
- 地球温暖化対策と言う枠組みでは緩和も含めて考えるべきではないか。【見込み】

今後への期待など

- A-PLAT の Web の魅力あるわかりやすい図やビデオなどのコンテンツなどにも期待する。【年度】
- 地域での動きはまだ始まったばかりであり、今後の地域適応センターの設立と活動に対して当センターが適格な情報を提供し、支援していくことを期待する。【年度、見込み】
- 今後、地方の適応策を助けるだけでなく地方からの協力を得ていく体制をとることによって、より効果的な成果が期待されると思う。【見込み】
- 国立研究機関等の外部機関に対してコントロールタワーとして機能できるようなネットワークおよび連携を実現するためのビジョンと戦略を期待する。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 時間スケールを考慮した適応計画策定支援やその実行に関しては、今後 PDCA のサイクルに即した指針の提示(具体的には当センターが主導して開発した ISO14092 等の活用)に努めてまいります。
- ② 気候変動の緩和も含めて考えるべきとのご指摘のとおり、影響・適応と緩和には密接な関係があることを踏まえた取り組みが重要と考えております。緩和策の研究は低炭素社会 PG、統合 PG で取り組まれておりますので、今後ともしっかり連携して取り組んでいきます。
- ③ A-PLAT については、引き続き気候変動適応に関する科学的知見や情報の充実に努めていくとともに、魅力的な Web コンテンツも継続して作成・発信してまいります。
- ④ 地域適応センターのニーズをしっかり踏まえ、海外の活動支援も学びながら、支援メニューの充実に努めてまいります。
- ⑤ 「地方からの協力を得ていく体制」を構築できるような仕組み(例えば地方環境研究所と従前より進めてきた I 型・II 型共同研究をもとにした新たな適応用の共同研究など)も検討していきたいと考えております。
- ⑥ 国環研の他センターの協力や国立研究機関間連携の推進、環境研究総合推進費 S-18 への貢献などを通じて、気候変動適応研究に関するネットワーク及び連携の実現を目指します。